

問題提起—第 16 分科会「原発の現状と放射線従事者の役割、賃金労働条件を考える」

- ◇運営委員 樋野 伸一 (松江保健生協労働組合)
高橋 勝 (東京女子医科大学労働組合)
岩崎 泰剛 (済生会新潟第二病院)
- ◇助言者 野口 邦和 (元日本大学准教授)

近年放射線業務に携わる医療従事者は高度技術を有する最新の医療機器の導入により、医療現場においてはなくてはならない存在となっています。最近では専門的知識を必要とする業務が多くなり認定制度が多くの分野で確立しています。

放射線業務に携わる医療従事者としては東北大震災における福島第一原子力発電所の事故による放射線被曝、医療現場で使用する放射線被曝についても考えていく必要があります。8年経過した現在、医療現場では患者さんから被曝による不安が多く感じられるようになり関心も深まっています。今回は午前中に元日本大学准教授の野口邦和先生を助言者としてお招きし、現在の原発に関することや原発廃炉に向けた今後について、また被曝に関することなど幅広くご厚誼いただくことになりました。

原発における実態や被曝における影響などの知識を深めるとともに、放射線従事者として医療被曝の問題なども討論しましょう。そして、放射線業務に携わる医療従事者の労働条件についても討論をしていきます。労働条件の実態は病院の方針や形態、救急の体制などにより、大きく左右されています。特に夜間勤務の実態、賃金形態、有給休暇消化率、サービス残業、認定技師制度、人事考課の実態、定年後の雇用等についてはさまざまな職場で問題になっています。皆さんの病院ではどうでしょうか？私たち労働組合ではこれらの問題を改善しより良い職場環境をめざし努力し勝ち取る必要があります。組合があっても機能しなければ何の意味もありません。そのためにも、労働実態を知るとともに、賃金労働条件少しでも改善に結びつくように皆さんで討論をし、現場に生かせるような分科会にしたいと思っています。